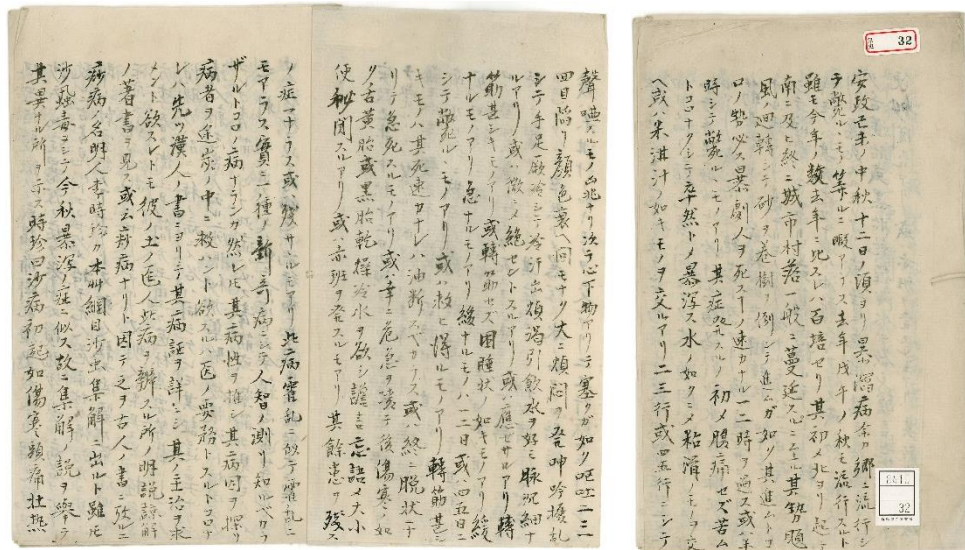


群馬県立文書館 教材活用史料詳細カード 17

請求番号	P8410	文書番号	32	年代	安政6年(1859)
史料名	「暴瀉病流行二付」				
形態	一綴	複製	あり	なし	(デジタル画像、複製物)
備考	寄託の古文書(上原成夫家文書) 「授業で使える群馬の資料」 疫病の流行 P42 に掲載 テーマ展示2「授業で聞いたな、こんな言葉」で使用(HPで公開)				
史料概要	安政6年(1859)8月に高崎藩領の元総社村(現前橋市元総社町)で蔓延しはじめた暴瀉病(コレラ)を地元の医師上原元伯が記録したもの。コレラは、前年の安政5年(1858)江戸で大流行し、この記録にも秋に流行したとある。医師たちがその対処に苦慮したことや、その伝染の凄まじさが記されている。				
指導要領(内容)との関連	<中歴>C-(1)-ア-(イ) 明治維新と近代国家の形成 <高歴総>B-(2)-ア-(イ) 日本の開国の背景とその影響				
活 用 例					
活用単元	開国と幕末の動乱				
活用場面	・開国によって物価上昇などの貿易の混乱が生じただけでなく、外国からの人の移動により暴瀉病(コレラ)が流行したことなど、開国の影響の重大さを理解させる場面で活用。				
活用方法	・文字史料であるが、読み下し文を活用することで、開国当時の伝染病流行の状況を読み取ることができる。また、授業では本文の内容とコレラについて解説した後、「最近同じような事例が起きてないか」、「コレラ流行の背景にはどんな状況があるのか」を考えさせることで、グローバル化により生じた問題やその解決への視点についても考えを深めさせることができる。				
予想される生徒児童の反応など	・幕末における伝染病の流行や混乱の様子は、昨今の新型コロナウイルス感染症の状況にも通じるものがあり、当時の混乱した世相の一端をより実感できると考えられる。				

史料画像 裏面参照

暴瀉病流行二付 (P8410) 安政6年



安政己未ノ中秋十二日ノ頃ヨリ暴瀉病余カ郷ニ流行シテ斃ル、モノ筭ルニ暇アラス去年戊午ノ秋モ流行スト雖モ今年ノ数去年ニ比スレハ百倍セリ其初メ北ヨリ起テ南ニ及ヒ終ニ城市村落一般ニ蔓延スルニ至ル其勢颯風ノ廻轉シテ砂ヲ卷樹ヲ倒シテ進ムガ如ク其進ムトコ口ノ勢必ス暴劇人ヲ死スノ速カナルニ二時ヲ過ス或ハ半時シテ斃ル、モノアリ其症恐スルノ初メ腹痛セズ苦ム

安政己未つちのとひつじの中秋十二日つちのえうまの頃より暴瀉病ぼうしや余が郷よに流行して斃るたおるもの算かぞうるに暇いとまあらず、去年戊午つちのえうまの秋も流行すると雖も、今年こゝろの数去年に比すれば百倍ひゃくばい（倍）せり、その初め北より起こりて南に及び終に城市村落一般に蔓延するに至る、その勢い颯風さつかうの廻転して砂を巻き、樹を倒して進むが如く、その進むところの勢い、必ず、暴劇（虐）、人を死すことの速すみやかなる、一・二時を過ぎず或いは半時して斃るるものあり（以下略）

* 安政己未の中秋（安政六年の八月）／暴瀉病（激しく下痢をする病氣、コレラのこと）／余が郷（上原元伯の住む高崎藩領元総社村）／一・二時、半時（秋の一時は約二時間）